

高知県中芸地区 森林鉄道遺産の調査

調査の目的 本調査は、高知県東部の奈半利町・安田町・田野町・馬路村・北川村の五ヶ町村で構成される「中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」より委託を受けた調査である。

この地域の山間部ではかつて林業が盛んで、明治期以降は国有林として管理された。山間部で切り出された木材は川沿いに海岸部まで運ばれ、海岸部には貯木場があり、ここから材木の積み出しがおこなわれ、この地域一帯が林業を基幹産業として繁栄した。そして、近代において山間部と海岸部を繋いでいたのが森林鉄道であった。しかし高度成長期になると、道路輸送が主力となり、森林鉄道の軌道は道路にとって替わられることとなった。それでも、現在もなお断続的に森林鉄道に関する遺構が残っており、地元では、当地方の繁栄の象徴であった森林鉄道遺構を地域の遺産として保存・活用すべく、その調査をおこなうこととなった。本調査は、これら森林鉄道に関わる遺構を調査対象とし、その価値を明確にすることを第一の目的とした。従来の森林鉄道に関する論著は、機関車や車両に関するものが主であったが、本調査では隧道・橋梁・石積擁壁・関連建物等の不動産を主に調査をおこなうこととした。

森林鉄道の概要 当地方の森林鉄道は、おおきくは魚梁瀬から馬路を通り安田川沿いに田野へ至るルートと、魚梁瀬から奈半利川沿いに奈半利に至るルートの、2本の幹線を軸に構成されている。西の安田川を下るルートは、まず馬路 - 田野間が明治44年に開通し、魚梁瀬 - 馬路間が大正4年に開通している。また東の奈半利川を下るルートは昭和17年に全線が開通している。その後、昭和36年から始まった魚梁瀬ダム建設を契機に、軌道部分が道路敷に変更され、昭和38年には森林鉄道全体が廃線となった。廃線直前の軌道の状況は、昭和33年の国土地理院作成の地図で確認することができ、安田川・奈半利川沿いの幹線ルートと、そこから派生するいくつかの支線で構成されていたことがわかる。なお、これら森林鉄道は、国有林を管理していた高知営林局(旧高知大林区署)によって建設・管理され、実際の管理・運営は地元の営林署によっておこなわれていた。

森林鉄道の遺構 森林鉄道は主として山間部の川沿いに建設されたため、山側には石積擁壁が組み立てられ、今なおこれら擁壁が断続的に残り、軌道のつながりを伝えている。尾根が川に張り出して迂回不可能な部分では隧道が掘られ、川を渡る場合には橋梁が架けられたが、これらも現在の道路施設として生き続けているものが多い。

安田川沿いの隧道については、軌道が道路敷に変わったものの、幹線道路が旧軌道の対岸に新設されたこともあり、その保存状況は良い。明治の開通時に建設された隧道が残っており、いずれも石組で、縦・横34cm程度の切石を丁寧に積んで、アーチをかけている。いっぽう、奈半利川沿いについては、軌道跡がダム建設時の工事用道路として使用されたこともあり、道路(軌道跡)の幅がなされ、それにもなって隧道も幅広されて当初の形態が失われているものが多い。

橋梁は、トラス橋、アーチ橋、ガーター橋があり、安田川沿いでは、昭和4年に木造トラス橋から鉄骨トラス橋に架け替えられた明神口橋が目を引く。奈半利川沿いでは、昭和15年～16年に架けられた、トラス橋である小島影橋、またコンクリートアーチ橋である二股橋・堀ヶ生橋が、美しい自然景観のなかで独特の景観を形成している。珍しいものでは、軌道が神社やお寺の参道を横切る場合に参道に架けられた跨線橋が2カ所あり、いずれも石積の特徴ある形式をもっている。また丹念に見れば、橋桁は架け替えられても、橋桁を支える橋脚部分に当初の石積を残すものも多い。

貯木場の先端には、舟積みのために海に材木を流すための棧橋があり、現在は廃墟のような状況であるが、森林鉄道の終着点を示す遺構として貴重な存在である。

今後の調査 今後の方針としては、①森林鉄道の歴史的価値の明確化、②線的な鉄道遺構全体としての価値の明確化、③隧道・橋梁等の個々の構築物の価値の明確化、④保存・活用方法の検討、以上4つの視点から調査を継続して纏める予定である。

ただし、森林鉄道を管理・運営していた営林署所蔵資料は、廃線後にかなり散逸してしまっている。今後は、さらなる資料の収集をおこなうとともに、かつての鉄道職員の方々からのヒアリングをおこない、森林鉄道の実態を明らかにし、平成19年度末には報告書を刊行する予定である。

(島田敏男)

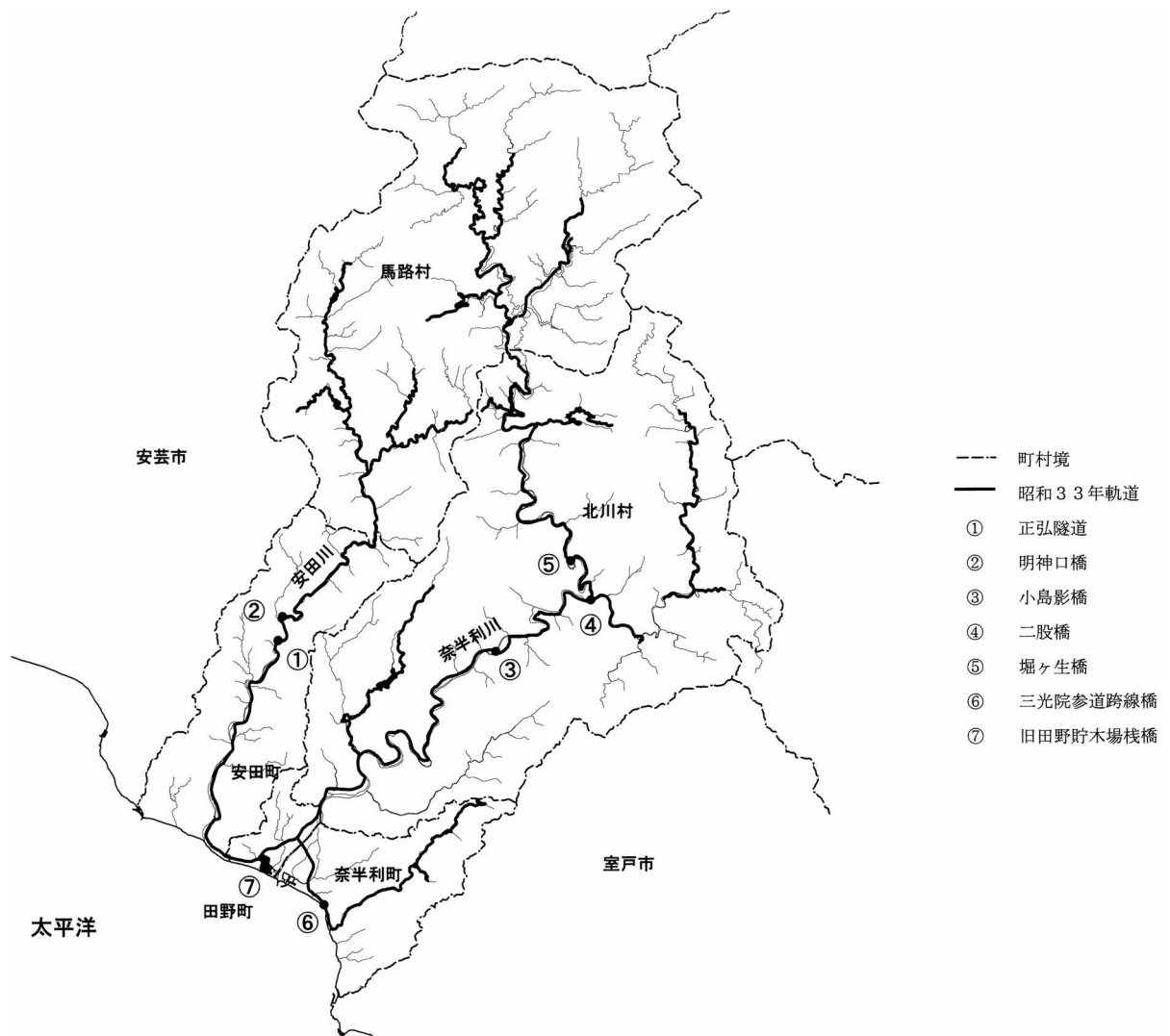


図89 昭和33年国土地理院地図による旧路線図



図90 石積擁壁



図91 隧道(正弘隧道)



図92 トラス橋(小島影橋)



図93 コンクリートアーチ端(二股橋)



図94 跨線橋(三光院参道)



図95 栈橋(旧田野貯木場)